

令和5年度第3回地域包括ケア対策委員会

日時：令和5年10月2日（月）19:00-

場所：沖縄県医師会館2階 会議室4

【氏 名】	大濱篤先生
【医療機関】	まちなと内科在宅クリニック
【所 属】	浦添市医師会
【標 題】	各圏域別（二次医療圏構成市町村）の特性について
【要 旨】	上記特性に見合った地域包括ケアシステムの構築が一体的に行われることが重要と考える。

令和5年度第3回地域包括ケア対策委員会

日時：令和5年10月2日（月）19:00-

場所：沖縄県医師会館2階 会議室4

【氏 名】	嘉数朗先生
【医療機関】	かかずハートクリニック
【所 属】	那覇市医師会
【標 題】	委員の構成について
【要 旨】	<p>現在、委員会は医師のみで、地域包括ケアの医療のみ議論されています。確かに地域包括ケアは市町村が主体となりますが、高齢化社会、多死時代における救急医療の逼迫は、新型コロナパンデミックでも明らかになったように、地域の枠を超え県全体の問題となります。よって、県推進委員会においても、住まい・介護・予防・生活支援などの担当を委員に迎え、様々な視点から協議する必要があるのではないのでしょうか？</p>

令和5年度第3回地域包括ケア対策委員会

日時：令和5年10月2日（月）19:00-

場所：沖縄県医師会館2階 会議室4

【氏 名】	嘉数朗先生
【医療機関】	かかずハートクリニック
【所 属】	那覇市医師会
【標 題】	訪問診療契約していない要支援・要介護高齢者に対する対策
【要 旨】	<p>現在の往診代診事業の対象は、訪問診療契約をしている方のみです。</p> <p>一方、現実では訪問診療契約していない要支援・要介護高齢者の集団が圧倒的に多く、先の新型コロナパンデミックでもみられたように、この集団からの救急搬送が大問題となります。超高齢化社会、多死時代における救急医療逼迫を防ぐべく、訪問診療契約していない要支援・要介護高齢者への対策を県レベルの当委員会で協議していく必要があるのではないのでしょうか？</p>

沖縄県在宅医療推進フォーラム 2023 開催要項

1 目的

今後高齢化が進行する沖縄県において、現在から将来にわたってすべての県民が希望する場所で必要な在宅医療を受けながら生活を続けることができるよう、医療介護専門職および一般県民とともに考えていくことを目的として開催する。

2 テーマ 未来へ紡ぐ物語 ～全てのひとが共存できる社会へ～

3 主催 沖縄県在宅医療推進フォーラム実行委員会

共催 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団、一般社団法人全国在宅療養支援医協会

後援

4 会場 沖縄県医師会 3階ホール

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川 2 1 8-9

5 日時 2023年2月3日（土）

2月3日 9:30 開場

【3階ホール】

10:00～10:10 開会の挨拶 長野宏昭

10:10～11:40

〔企画①〕 新しい概念を学ぼう

オーガナイザー・座長：山入端浩之 きたなかぐすくファミリークリニック

パネリスト：小澤竹俊 めぐみ在宅クリニック 「コンパッション都市」(Zoom)

山田拓 オランダ在住 「ポジティブヘルス」(Zoom)

長野宏昭 いきがい在宅クリニック 「Ikigai」

企画趣旨：在宅医療は通院が難しい患者のもとへ医療を提供し、在宅での穏やかな生活をお支えする役割を担うだけでなく、医療と介護、福祉などが連携し地域社会を創生する地域包括ケアシステムの中心を担う存在になることが期待されている。

近年では新しい社会概念、健康の概念を表す言葉が各国で提言されているが、それらの詳細や違いについて多職種が集まり対等な関係で考察、検討される機会は少なかった。

「ポジティブヘルス」は2011年にオランダの家庭医であるマフトルド・ヒューバーにより提唱された。その考え方による健康とは「社会的、身体的、感情的な問題に直面したときに適応し、本人主導で管理する能力としての健康」というものである。

「コンパッション都市」はアラン・ケレハーの著書で提案され、公衆衛生と終末期ケアの融合というサブタイトルが添えられている。死生を支え合うコミュニティにおいて、対話とコンパッションはどのような役割を担うのか。

「いきがい=Ikigai」は長寿地域を意味する「ブルーゾーン」の概念を広めたアメリカの研究者・作家であるダン・ベットナーが、日本・沖縄の長寿の理由の1つとして「生き甲斐」(ikigai)に言及したことで、2000年代以降の欧米でも広く知られる概念となった。各概念にゆかりのある登壇者に概念の紹介をしてもらったのちに、これらの概念が沖縄でどのように社会実装できるかについて、会場の参加者と対話を深めるセッションにしたい。

11 : 50 ~ 13 : 20

[企画②] 「認知症！難病！どんな私でもここで暮らしたい」を支えたい！

オーガナイザー・座長：与那覇涼 うらそえ介護福祉士会
田村浩介 いきがいクリエイション
パネリスト：秦 克之 中頭病院 医療相談室
前田耕平 イーズC&S
親泊朝光 いきがいサポートステーション
末吉珠代 おもと会 クリニック安里訪問リハビリテーションセンター
安保奈緒 ヘルパーステーション ラクダ
玉城武範 くすりのミドリ

企画趣旨：沖縄県における高齢者人口は、2040年まで全国一高い伸び率で増加していくことが予測されており、高齢者人口は2040年には2015年の約1.5倍に増加する。高齢者人口が増加する一方、生産年齢人口及び年少人口は減少、2040年には県民の3人に1人が高齢者となる「超高齢社会」が到来する。第7次沖縄県医療計画では、在宅医療分野において、①在宅医療提供体制の整備②多職種の人材育成③地域の連携体制の整備を課題としている。我が国では、市町村単位で、住み慣れた地域に暮らしながら、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築することが目指されており、医療においては、要介護状態の療養者を在宅でケアする在宅医療が不可欠となっている。また人生の最期を迎えたい場所について、一般国民の約70%が自宅を希望しているが、実際には80%以上の人々が病院で看取りを迎えており、希望と現実の開きは大きい。

本企画では、沖縄県の地域医療、在宅医療に関わる登壇者より印象に残る事例を示しながら、一人でも多くの県民の「穏やかな暮らしを望む場所で最期まで」を支えるために私たちに何ができるか、会場の参加者と対話の時間をとりたい。たとえ答えのない、解決困難な課題であったとしても、職種や立場を超えて、社会は実現可能であるのか？皆様と共に考えたい。

13 : 30 ~ 14 : 30

[特別講演①] (タイトル仮) 台湾の僻地で展開される在宅医療

オーガナイザー・座長：喜納美津男 喜納クリニック 院長

講師：余尚儒 台湾在宅医療学会 会長

企画趣旨：台湾はアジアの中でも在宅医療、看取りが進んでいる国として注目を集めている。在宅医療の普及において大切にしていること、行政との関わり、システム作りなどについて学びたい。

台湾の在宅医療の最前線で活躍する医師を招聘し、わが国が台湾の在宅医療から学ぶべきこと、日本との違いについても知る機会になるだろう。台湾での成功事例をもとに、日本でも明日から現場で取り組むことができるものはあるか？ 現在、在宅医療に携わっている医師だけでなく、これから在宅医療を考えている、在宅医療に興味を持っている医療者や参加者にとっても有意義な時間となるだろう。

14 : 40 ~ 15 : 40

[企画③] 小離島からみえてくる“地域丸ごと”の看取りの豊かさと創造性

座長：泰川恵吾氏 (ドクターゴン診療所)

企画：佐久川政吉 (沖縄県立看護大学)

話題提供者：

- ・依頼未：泰川恵吾氏（ドクターゴン診療所・所長兼医師）
- ・依頼調整中（宮古圏域 小規模多機能型介護施設・管理者兼看護師）
- ・依頼調整中（竹富町●島 小規模多機能型介護施設・ケアマネジャー）
- ・依頼調整中（県立八重山病院●●附属診療所・看護師）
- ・看取りの経験者：ご遺族？（検討中）

多死社会を迎えているニッポン。「最期をどこでどのように過ごすのか」は、当事者（県民）、専門職、県・国レベルでの喫緊の話題である。かつては、看取りの場は自宅であったが、1976年を境に病院死が自宅死を上回り、2015年には病院死（診療所を含む）が76.6%に達した。病院で最期を迎えることの背景に「家族に迷惑をかけたくないから」等（終末期医療のあり方に関する懇談会，2010）がある一方で、必ずしも当事者（市民）も専門職も病院で最期を迎えることに満足しているわけではないところに、看取りのジレンマがある。

沖縄県に目を向けると、2016年に病院等の施設内84.4%、自宅12.9%、その他2.8%であったが、5年後（2020年）は自宅15.2%である（令和2年 衛生統計年報）。自宅死（人口動態調査，2017）は、全国13.2%に比し、沖縄県は12.9%である。さらに、島々に目を向けると、例えば、八重山圏域で石垣市19.%、与那国町5.9%、竹富町28.2%であり、離島間での地域差がある。

以上の背景を前提とし、本フォーラムでは、今後の地域・在宅での看取り（ケアを含む）を推進していくためのヒントとして、沖縄本島に比べ、保健・医療・福祉・介護等のフォーマル・サービスが乏しい小離島で、島内外との多職種連携やインフォーマル・サポートを巻き込んだケア等の看取りを実践している専門職から話題提供をしていただき、皆様と一緒に“地域丸ごと”の看取りとはなにか？について対話する機会としたい。

15：50～16：50

[特別講演②（市民公開講座）] 学生・若者と夢を語ろう！

オーガナイザー：長野宏昭 いきがい在宅クリニック

講師：小澤竹俊 めぐみ在宅クリニック（Zoom）、

パネリスト：金城里咲子 社会福祉士

琉球大学医学部その他学生、研修医数名

企画趣旨：在宅医療の今後、未来を担う上で、卒前、卒後教育のカリキュラムの中に在宅医療を組み込み、早い段階から病院医療と在宅医療のメリット、デメリットをバランスよく認識できる医師を育成することが重要と考えられる。

また、人口減少社会であっても、若者や学生が夢や希望を持って暮らせる地域社会は実現可能であるか？世の中を変える原動力となる若い力の可能性を信じたい。

これから社会に出て活躍が期待される医学生、看護学生をはじめ、地域で活躍する若いリーダー達も交えながら沖縄の地域創生、在宅医療の未来について、夢を語り合う場を作りたい。

17：00～18：30

[企画④] 「我が仕事の流儀」在宅というフィールドで活躍する人々の物語「Your story」

オーガナイザー・座長：新垣俊 株式会社さんだん花 主任介護支援専門員

パネリスト：（調整中）介護福祉士、作業療法士、介護支援専門員、家族等

企画趣旨

沖縄県では、何かしらの支援や援助が必要な人々の暮らしを支えるために、多くの職種が日々奮闘している。「高齢社会」「少子化」「人材不足」「離職」「バーンアウト」「救急医療のひっ迫」「財政難」など、課題は山積している。苦しむ人の力になりたいと思い日々の仕事に邁進する

我々も心が折れそうになる場面がある。苦悩の日々が続き「どうしたらうまくいくのか?」「なぜうまくいかないのか?」「このままでいいのか?」「自分は本当に役に立っているか?」解決できない苦しみを前にして、自問自答を繰り返している。心身ともに疲れ、時には課題に対して向き合うことを諦め、思考停止していることに気づかなくなるほど疲弊していく支援者も多い。

人々が困難を抱えながらもまた笑顔になれるよう支援することは並大抵のことではない。しかしそれは逆に「苦しみがあっても笑顔になれた時、その人らしい暮らしに近づけた時」のうれしさとやりがいは体感したものしかわからない。その神髄に触れたことがある我々専門職は「他人の普通の幸せ」を自分ごとのように感じることをできやりがいに変えエネルギーにすることができる。

困難を抱えた人の話を聴きながら、「本人のヒストリーを知る」「ナラティブや気持ちを理解したら」「視点を変えたら」「やり方を変えたら」「人を変えたら」などストレングス視点によりアプローチを変えたら「うまくいった」「喜ばれた」「その人の望む暮らしが実現できた(近づけた)」などの支援者視点の「わずかな成功事例」(Your Story) 体験を語り合い、共有することで会場にいる我々全てが明日からできることは何かを考えたい。我々の仕事や役割、価値を確信し登壇者含めすべての参加者が明日からの仕事の「やる気スイッチ」になるような時間にしたい。

構成：①オーガナイザー兼座長の前談「ケアとキュア苦しみの構図」②話題提供③各パネリストによる事例発表④パネリスト同士のクロストーク⑤会場参加者を交えてトークセッション⑤座長によるまとめ

18:40 閉会の挨拶

- 6 **対象者** 一般市民 医師 歯科医師 薬剤師 保健師 看護師 介護支援専門員 社会福祉士 精神保健福祉士 介護福祉士 ソーシャルワーカー ヘルパー 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 歯科衛生士、そのほか在宅医療・在宅ケアを支える職種の方々
- 7 **定員** 会場参加：200名 オンライン参加：300名
- 8 **参加費** 本会：無料
- 9 **申込期限** 2024年2月2日
- 10 **申込方法** ホームページの専用フォームからの申込
<https://okizaitakufm2023.hp.peraichi.com/>
- 11 **お問い合わせ先**

沖縄在宅医療推進フォーラム 2023 実行委員会
担当：NPO 法人いきがい LABO 知念
〒904-2155
沖縄県沖縄市美原 2 丁目 8 番 7 号
okizaitakufm2023@gmail.com

沖縄在宅医療推進フォーラム実行委員会

<委員・アドバイザー一覧>

	氏名	所属・職種
大会長	長野宏昭	いきがい在宅クリニック 院長 医師
実行委員長	田村浩介	株式会社いきがいクリエーション 代表取締役 作業療法士
委員	新垣俊	株式会社さんだん花 主任介護支援専門員
委員	安保奈緒	うらそえ介護福祉士会 介護福祉士
委員	喜納美津男	きなクリニック 院長 医師
委員	金城里咲子	株式会社いきがいクリエーション 社会福祉士
委員	佐久川政吉	沖縄県立看護大学 教授 看護師
委員	知念はるひ	株式会社いきがいクリエーション 作業療法士
委員	宗像暁美	琉球リハビリテーション学院 作業療法士
委員	吉岡美和	沖縄リハビリテーション福祉学院 作業療法士
委員	与那覇涼	うらそえ介護福祉士会 介護福祉士

		氏名	所属・職種
	アドバイザー	奥間祐次	おくまクリニック 院長 医師
	アドバイザー	親泊朝光	株式会社いきがいクリエーション 副社長 看護師
	アドバイザー	末永正機	ちゅうざん病院 副理事長 医師
	アドバイザー	高山義浩	沖縄県立中部病院 感染症内科 医長
	アドバイザー	玉城武範	みどり薬局 薬剤師
	アドバイザー	天願勇	クリニックぎのわん 院長 医師
	アドバイザー	秦 克之	中頭病院 相談員（ソーシャルワーカー）
	アドバイザー	前田耕平	イーズ C&S 主任介護支援専門員
	アドバイザー	泰川恵吾	ドクターゴン診療所 院長 医師
	アドバイザー	山入端浩之	きたなかぐすくファミリークリニック 院長 医師
	アドバイザー	涌波淳子	アガベ会 理事長 医師